

氏 名 齋藤 幸
学位の種類 博士 (医学)
学位記番号 甲第497号
学位授与年月日 平成30年4月4日
審査委員 主査 教授 神田 秀幸
副査 教授 織田 禎二
副査 教授 佐倉 伸一

論文審査の結果の要旨

Gd-EOB-DTPA-MRI (以下EOB-MRI) は従来の腫瘍内血流を評価する画像検査と比べ、肝細胞癌 (以下HCC) の早期からみられる腫瘍細胞の胆汁酸トランスポーターの障害を捉えることが出来る画像検査として、HCC早期発見の有用性が報告されている。しかしながらHCC治療歴のない患者において、本トランスポーターの障害がある肝乏血結節のHCC進展状況は明らかでない。そこで、HCC治療歴のない患者において、患者ごと、結節ごとそれぞれ検討し、肝乏血結節のHCCへの進展状況、また、HCCへの進展に関連する背景因子や結節直径を明らかにすることを目的とした。

本院で2008年6月から2013年6月までに初回EOB-MRIを行い、2015年12月までフォローされた28症例の91肝乏血結節についてretrospectiveに検討を行った。本研究ではHCCの定義として、病理診断、画像での多血化・増大とした。この結果、累積HCC進展率は12ヶ月22.4%、24ヶ月29.1%であった。HCC進展に関する背景因子の検討では、結節ごと、患者ごとの検討の両方で有意な因子を見出せなかった。また、12ヶ月時点のHCCへの進展に寄与する、初回指摘時の乏血結節のサイズ (HCCへの進展予測結節直径) のカットオフ値を求めるため、12ヶ月以上フォローできた74結節でROC解析を行った。偽陽性・偽陰性の最も少ない精度は感度57.9%、特異度87.3%であり、この精度を示す至適カットオフ値は予測結節直径9.5mmであることを明らかにした。

本研究結果は、HCC治療歴のない患者における肝乏血結節のHCC進展を考える上で重要な示唆であると考えられ、HCCの早期スクリーニングとしてのEOB-MRIの活用につながる可能性をもつ。よって、予防医学的示唆に富み臨床応用も期待されることから、博士 (医学) に値すると判断した。